

平成3年度  
病害虫発生特殊報(第1号)

平成3年11月16日  
東京都病害虫防除所

-----  
病害虫名: マメハモグリバエ  
-----

## 1. 発生確認の経過

本年9月、東京都大島町のガーベラにハモグリバエの一種が多発し有効な薬剤が無く、防除に苦慮しているとの情報を得た。これよりさき、静岡、愛知両県からマメハモグリバエの特殊報及び注意報が出されていた。このため、10月に同町においてガーベラ上の成虫を採集し、笹川満廣元京都府大教授に送付し同定を依頼したところ、マメハモグリバエであることが明らかとなった。

なお同島では昨年10月から本年にかけて、キヌサヤエンドウにハモグリバエ類が多発したが、笹川元教授によれば、エンドウではナモグリバエが普通種であることから、これがマメハモグリバエかどうかは疑わしい。

本種は我国では既知種であるが、主要害虫にはなっていなかった。しかし、欧米では薬剤抵抗性出現のため最重要害虫に指定されている。

## 2. 学名 形態及び生態学的特徴等

(1) 学名 *Liriomyza trifolii* BURGESS

(2) 和名 マメハモグリバエ

(3) 形態

- 1) 成虫は体長約2mm、頭部及び胸部と腹部の側面は黄色、その他は黒く、光沢がある。雌はよく発達した産卵管がある。近縁種のナスハモグリバエ、ネギハモグリバエ等の形態とよく似ており、肉眼では区別しにくい。
- 2) 卵は円筒形、半透明、ゼリー状で、長さは0.2mmである。
- 3) 幼虫は黄褐色のウジで、成長すると約2.5mmになる。
- 4) 蛹は褐色で、長さ約2mmである。

(4) 生態

- 1) 成虫は産卵管で葉面に小さな穴を開け、にじみ出る汁液を摂取する。
- 2) 卵は葉の内部に産みつけられ、幼虫は葉に潜ったまま葉肉を食害する。老熟幼虫は葉の外に出て落下し、地表面や地中の浅いところで蛹になる。
- 3) 露地では冬期の発生を見ないが、施設内では年間を通して発生する。

(5) 寄主植物

寄主範囲は極めて広く、キク、ガーベラ、セルリー、トマト、レタス、メロン、キュウリ、ダイズ、エンドウ、ナス、ジャガイモ、ニンジンその他キク科の雑草などにも寄生する。特に、キク科、セリ科、マメ科の植物を好む。アブラナ科野

菜も加害する。外国では21科120種の植物に寄生することが知られている。

### 3. 被害

幼虫による葉の食害痕が白い線状となって残り、花き類では著しく商品価値を低下させる。成虫の摂食痕や産卵痕も白い斑点となり、商品価値を低下させる原因となる。果菜類では、多発すると下葉から枯れ上がり、減収する。

### 4. 防除法

- (1) 多発してからでは防除効果が劣るので、発生を確認したらできるだけ早期に安全使用基準を厳守の上、防除を行う。
- (2) 本種は明るい所を好むため、施設内では南に面した場所や通路側を重点的に防除する。
- (3) 本種は土中で蛹になるので、施設栽培では改植時に土壌消毒を行って蛹を死滅させる。
- (4) 成虫は絶食状態におくと数日で死滅するので、次作の定植まで10日以上あけ前作で残った蛹から羽化する成虫の死滅をはかる。
- (5) ほ場周辺部の雑草は発生源となるので除草する。
- (6) 収穫後の被害残査は発生源となるので、焼却するなど適切に処分する。
- (7) 収穫の側窓、出入口等に、成虫侵入防止用の寒冷紗等（網目1mm程度）を設置する。

表1 防除薬剤と安全使用基準

安全使用基準（収穫前使用日数／使用回数、希釈倍数又は施用量）				
薬剤名	エンドウ	トマト	キク	ガーベラ
パダン	ハモグリバエ類			
水溶剤	1/3,1000倍			
カルホス			オシツコナジラミ	
乳剤			-/-,1000倍	
トクチオン			アブラムシ類	
乳剤			-/-,1000倍	
マブリック			アブラムシ類	
水和剤			-/-,2000倍	
マイクロホーン		テトウムシダマシ	ハマキムシ類	アブラムシ類
水和剤		7/3,1000倍	-/-,1000倍	-/-,2000～ 3000倍
オルトン		アブラムシ類	アブラムシ類	アザミウマ類
水和剤		7/3,1000～ 2000倍	-/-,1000倍	-/-,1000倍
オルトン		オシツコナジラミ		
粒剤		7/3,1～2g/株		
ダイゼン	アブラムシ類	アブラムシ類		
乳剤	ハダニ類	10/3, 1000倍		
	7/3,1000倍			
ダイストン	ハモグリバエ類			
粒剤	60/1,3～5 kg/10a			

安全使用基準（収穫前使用日数／使用回数、希釈倍数又は施用量）				
薬剤名	エンドウ	トマト	キク	ガーベラ
マラソン	ハモグリバエ類	アブラムシ類		
粉剤	7/3, 3kg/ 10a	1/-3, kg/10a		
E P N	ハモグリバエ類			
乳剤	7/-, 1000 ~ 2000倍			
アディオン	ハモグリバエ類	オシロコジラミ		
乳剤	1/3, 3000倍	1/3, 2000倍		
マラソン	ハモグリバエ	アブラムシ類	アブラムシ類	アブラムシ類
乳剤	7/3, 1000倍	1/-, 2000~ 3000倍	-/-, 2000~ 3000倍	-/-, 2000~ 3000倍

注．表中の上段の対象害虫と同時防除を行う

上記、生態および防除法などに関しては、静岡県発表の特殊報および注意報を参考して補追した。